



古語彙考

下



利5
3473
3



利
3473
3止

秋の日三哥仙

大正三十四年

秋の月三奇の仙

去か〜の様うさよ山峯花野と〜
 風おの〜とあ〜し〜
 す〜み〜
 景言外〜
 むみ〜
 こあ〜
 秋の月三奇〜

繩海魯隱



文化五年辰秋

多〜
 淺の〜
 舟も〜
 人の〜
 け〜
 朝日〜

士朗
 一草
 岳輅
 朗
 草
 輅

う
ちかきしとハ管北リ民残の上
ちかきしとハ管北リ民残の上
瑞ふさておさく人付ささく腹ささ
風種もはさく河縁のおく南さ
おとささりさおおの月のささき
槽のささりさおる民前 髪
ちか神をちさしささ隣のみ
夕口小福土のえおさ 船凡
ほさき民ささく 晴ぬいささ
サさおさささささ 夕さささ
夕土さささささ 念を共さささ

多 朗 慈 多 朗 悠 多 朗 悠 多 朗

二
おんかさり すすまの南カと
いささ 説のいさりの中ささ
美や はささ 二日又二日
山寺の門と出ささ 丹波口
ささささ さささ 湯 湯
まさささをさささ 湯うささ
おさささ さささ さささ
おささ さささ さささ 次序さ
面おささ さささ さささ かり
抜保さ 風めかささ さささ
屋ささ さささ さささ さささ

朗 悠 多 朗 悠 多 朗 悠 多 朗

新種の灯ふおれてまういし
庫^コ澤の宍の粟よ喰あく
痛^イききほりおそへてうそま
た^タおふ^ウと又うお^ウや
ゆ^ユめ^メか^カあ^アの^ノ晴^ハる^ルま
の^ノあ^アの^ノあ^アの^ノあ^ア
名^ナも^モあ^アの^ノあ^アの^ノあ^ア
七^シ十^{ジュ}七^{ジュ}を^ヲく^クも^モめ^メう^ウう^ウひ^ヒま^マの

性^{セイ}朗^{ロウ}性^{セイ}朗^{ロウ}性^{セイ}朗^{ロウ}性^{セイ}朗^{ロウ}

吹^フ風^{フウ}の^ノ日^ヒう^ウふ^フる^ルて^テ秋^{アキ}の^ノ月^{ツキ}
海^{ウミ}の^ノし^シの^ノ海^{ウミ}の^ノし^シの^ノ月^{ツキ}
舟^{フネ}の^ノし^シの^ノ海^{ウミ}の^ノし^シの^ノ月^{ツキ}
の^ノし^シの^ノ海^{ウミ}の^ノし^シの^ノ月^{ツキ}
傘^{カサ}の^ノし^シの^ノ海^{ウミ}の^ノし^シの^ノ月^{ツキ}
味^{アジ}の^ノし^シの^ノ海^{ウミ}の^ノし^シの^ノ月^{ツキ}

一^{イチ}士^シ朗^{ロウ}一^{イチ}士^シ朗^{ロウ}
士^シ朗^{ロウ}士^シ朗^{ロウ}士^シ朗^{ロウ}
朗^{ロウ}朗^{ロウ}朗^{ロウ}朗^{ロウ}

新編 三枝伝

下 四二

おもひの海へもあふれば
 能くその七尾の橋もよむす
 しつととそも久しき峰の松
 綿子君そむくもあり日の著
 何より鼻ふかきくも懐甲夜
 喚指みきの淡みやりして
 ありくとも知らう後すはな
 鶯の啼はるをみよむすはな
 の水に散ちくともまろれそ
 袴着るも東も南人の靴白
 とし 花の香郁うも根ふく玉

朗 子 情 朗 子 情 朗 子 情 朗 子

おもひの海へもあふればかしく
 かの日爽いあはれもあはれ
 くららの屋敷に寝るも詠あり
 怪弟ともいそて坊子のついで
 昔かせみよして涙ももろり
 燈心のあけくもくく行あふ
 味子ふくもろり酒も初古
 奈花は建並んもよも後
 山伏のくもききたつも
 へびの枝もろくもよもあふ
 ありもあふもあふもあふも

雄 子 雄 子 雄 子 雄 子 雄 子 雄 子

新編 三枝伝

下 四二

新編
源氏物語
卷之五

下
五

せしちる音よりこころなるあまら
除とおよよるおのれあまら
ちりぐくみさ岐のほろあまら
白鳥こころをさおらり山 凡
うや世と地縁賣よとて
大姐をさほほくめ
花暖く社のみまよりりり
新くお尾とあま永ま日の新

雄、ま雄ま、雄ま

すくしとまて月をい入
すくし麻をくくく打法
花あくく凡の地縁賣くくく
おらこりするをけくめんなき
おくくくくくくくくくく
小まらおぬぬの踏く保と遠

備史
士朗
一草
岳略
史朗

大
山

下
六

新編 古今和歌集

下 二

あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮

史 雪 悟 史 朗 結 子 朗 史 三 新

あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮
あはれゆくは 控さるるも 花は 夕暮

史 青 伯 史 朗 結 子 朗 史 三 新

古今和歌集

下 二

おふらふふを月かやふつれ
 石打つ水けりゆく
 けりゆきま境中か接すのては
 あくらくくるり 坂木
 坂塙のむつりりきき
 りの種志きき 源まき
 山々花の白いさくら
 けりけりけりけりけり
 五雄

青 朗 子 史 轉 字 朗 雄

ふれ屋のやねり尾張のちけのまきもまき
 らるるるるるの人のまきもまき
 花野まきりほそけりけりけり
 こはるるるるるのまきもまき
 らるるるるるのまきもまき
 けりけりけりけりけり
 ゆくゆくゆくゆくゆく
 まきもまきもまきもまき
 らけりけりけりけり
 清

かまつけ長三郎

種子
根
葉
花
果
實

下
ノ

入
勺
名
流

枇
杷
の
實

ハ
ハ
ノ
ノ

下
ノ

ひし
の
の

一
下
九

席足の岳轆一そみ六年純

宮の史成考り岱青其集

了ていさよむの月とえさよ

平はおろきふのあれいしゆり

二月をえても後々人月の友

そそ花み鏡りあれてたのき

蜻蛉も舟のあ〜とぬえり

篔とまか〜行りみ奥

船屋よまてゆ所暮法み〜く

年和と〜くみ人のおてま

西の手さくわ〜まらう死ま

蓋の志も通柄とほむあり

酔さ免の男斗ハ老捨てを

おみ法をのまきと神時

士朗

其成

岱青

大阜

岳轆

少汝

桂五

墨山

松凡

白圖

八
の
八

しらのみ

下十

意らるる何成とよおりのまら
 定る色を深き移凡
 後里まゝの南をらるる
 房移とほむ一けを月
 老をうる傍み秋に泪け
 かろく一けしそ笑ふ血刀
 世の中へ咲ぬ花もあまさを
 湯屋のまるととらん山ふ
 川ニの影の移るおく河之と
 五位ともあつて早き志を
 小社のまゝまのあまきとて

天老 狭六 碓淵 方明 丈成 士朗 卧央 岱青 大草 岳路 小女

虫歯研ちてくるはのかの由き
 おもくろき中をり空に隔れ
 あとみ結を解けえせる美ま
 る身月のまの懐くとまき
 こくやと長れちる白砂をく
 煙さくくえてはあきや活の
 白おこかりふあつて末辱
 月みるるよの厨といふせん
 むし晴くくく物ふと去る
 海の中へ小社の影のちる斗
 直もやうに袖おをを記さす

桂五 岳山 松兄 白圖 天老 方明 碓剛 狭六 卧央 士朗 其成

しらのみ

下十

秋の風よと菊の香よと表はる
 昔のむらさきの上は行はる
 ちりちり花の集りてははる
 昔は清き水は流る

岱青
 大阜
 紀風
 女汝

松見まゝと拍入れて

名月や中絶するく穴の移る
 ぞくく風の通るかけこ
 岩は遠くをかける村風
 叶は貝吹く時と素と夕

双鳥
 士朗
 岱青
 双南

海らとくと松の一枚は吹出
 としと火おこせわさ葉つむへく
 押。ほと車のほろろのこえり
 才童のいよいか——古き
 盃とちりちりあふらむい
 ちりちりこゆるる松葉は
 うねる人も雲の影さうさう
 秋もあそびといふやうさう
 花のいほふ新島お花のうけ
 高き静かかきまきて花と壺
 志らむとまきとまきとまのたや

岳終
 少汝
 廿成
 天光
 桂五
 松兄
 士朗
 青
 南
 輅
 汝

ひのけ

冊

六島よをのど名あらしめてきく
かくすれは飯の山路よ山さき
ゆりて夕まらふさきき 昔け

成 光 五

おのゝが女あらしあつさうて

ん古き人表あり雨は月
さきよの風とむきよは秋
移さぬおのの村よ故郷て
見えぬる屋よ見ゆゑ実の
石切切まの舟よおのり
まらくとして酔かまれ

大阜 少女 士朗 岱青 双南 其紫

亭橋と天は神の名をゆた
工まの付て専ら 専ら
綴ハ神人の心もゆた
世の中ら妻外あらしめ
法は五人武者ありおのり
名月とたれおのりとらう
雲よまらしたく 雲よ人の
とんちんの又あらしむきに
紫の影ささるる花のさく
小更日の山おのりおのり
屋おのりおのりおのり

以 阜 青 格 格 格 格 格 格 格

八のけ

冊

ひのひ

下

東子

推翁亭

雪早一三と凡み横身八
湖盛一日も出り
折立つづとこ弱や繁しん
筆ふさ何せん人六人
帷子みあつら遠るも月ね
乱れて暮み種りん申るね
村もくも小田切房を
お起あつら齊屋
かきよつたおまれの髪

士朗 其成 月居 小華 花珠 朔 宋 居 丈左

骨神の日も揺れはさくあき
後柳の初先ふさくしん張
師走のやみとぬの遠る
人あつら七き遠あつら
柿うらおとら年む終き
影きゆつ月の美津と
多居と造つ新舞
子供かおやら楓
夫と娘とむら
あつらむら蚤し
家みららつら

縣 花 成 雅 右 朗 花 居 郎 殊 居

八の

下

此の歌

十一

吸りのうらや住きくあふなり
 扇をよこころはあふのほは
 見医者をつらふ人の松ふりて
 小玉のたよりも三日四日あき
 春まみかみのみあふ大振
 房はうら寺地を垣と押さ

出 縣 九 雅 花 九 朗

古さる古のやう
 花を付て菊のまらふゆつ連
 初秋さくら月かりあや

一 岳 輅 草

われうらとまきつゆあふあふ
 出石あふうら法くもあふ
 ねよちれて雲のはまをよく
 ねとつらその冷ゆ山のし
 初花とあふま鞋てうら
 初花とおひいけあふ空を
 小玉のあふうらわらふ
 あふうらや神あふうら女
 二月酔さるあふあふ侍
 いやくとさるあふあふ

士 朗 方 明 卓 池 士 朗 池 明 朗 池 明

八の歌

十一

此の
四の
み

明
朗
池

三方けりさかづき換うささく
田の畑りささぬまゝし行の月
木履折かきさる山伏おの
人新し身と悲ひふたせさ
さしふるまゝさる鹿あしき
三手
毎日の松の畑みまあり
雪の階ゆきまゝの雪の静
信理とのまひ焼く雁りひて
日と一なつて世の世の世の
垣根こえさよふおのりあけ
泣訪の鉄さし上るは鳥うり

朗
池
明
朗
草
明
池
草
朗
池
明
朗

水端けりささるの洗えささく
おんこお織美さんまゝささる
初おのむきさく世と六ぬま
庚の髪さくまゝさるはく
三日月の影の雲の影さく
引板のりしろへ巻たひ返
きさんさく換られし子の表
とりのひさささささささ
兼徳とさるまゝささささ
人のほりかきささささ

朗
成
格
草
格
池
草
郎
草
明

八の
み

下
其

ひびのひ

兔角して老来は花の志不_レ
處所また家門の中より

成路

推敲車は急所より往く

士朗

梅柳きのふに枝はちか_レる

推敲車は急所より往く

走井や歩たけは底清し

花縣

貴ハさく都の花を塵の衣

玉屑

教く足所はくは風雲心も

け亭は推敲はかくら_レる

花より人よりは心よきと

羅城

推し敲も焼人の心と風を

ほおきて町は美に雲の南

瓜坊

け亭は教はくは心よきと

辛夜号者なりと

原ききて清きは流ぬまは水

青橋

破石八門とたくの雲ちうと

赤し後へ流しいと

明あきと宿は月流まかぬ

拱道

八のひ

六

此の四み

下七

西ハ赫三条通り東ハ俣ウ西

とく

こまこのたど厩かろたろくえ
十三大江山
榎おやたろかぬ先えんたど吹る
十嘯山

乾坤くまの凡土所とろえて
一字の推致とろくくくくく

そろろの樹や茂るゆゆり
とてや戸上雲えのつせの朝すま

推致のんとろのせことと後く
夏本立いつせの梅とろけり梅
十六未六

ゆいそろのそろ身みろろろ
一字

推致の中く

飛ろくしと水新晴秋の人おけ
斗入

推致の舟と水新晴の舟
不三庵
十六三三

蚊姑み月美持まろく時まろく
あろく焼ハのそと四ハ零ろ音
おとまろくおろ推致とろけり飲

仲ろろろ

むつろくと花梅戸の吹ろろろ
田木
酒屋けろ福のろ風ろろ吹
雄関

枇杷の實

推紋のうらみ

幸しせぬ桃玉のちりや花の雪
人の家のうらみや花の山
より来てさびさきつる
斗雪 岳路 卓池

枇杷の實

枇杷の實追加註

春

歳且竹ましまして交ふあした
新しき山風さや唐み交
え見しころや嵐のまほるふ
ちて中しむわよけ弱の神り知
嫁り君行頬ハ雨くかくれり
こみ葉 昌やそ遠入しそひのわき葉か
君うさめとくりまよちるさあみ
士朗 樗堂 太節 古光 起蝶 其瓏

八八

長

梅

しんのみ

新地

主人ききし梅よりとさ家 長 長
 梅の影まきつじさこ用まお 影 巢居
 大は給よかくぬ安や梅りき 雄 雄洲
 梅遠きまよも小まや隣りま 士 士由
 生其のいろはぬ多う梅の花 馬 馬年
 正月まふまあるさし梅みお 有 有斐
 梅の花一つえ付ていそかち 漫 漫々
 小聖乃み道分梅も咲こたり 庶 庶古
 梅の島の信もかちや舟の鑑 周 周泰
 鏡の鏡一きハ付し梅みお 羽 羽黄
 梅日記の昔和帯うそ梅の花 九 九朴

そつくりとさよ小庭の梅みお 梅 梅塙
 花なけり一倍梅の實さくま 国 国村
 行隅まひしハ梅を梅のいろ 上 上丸
 傘も用かちしこち梅みお 守 守三
 うまうさくま系まお梅みお 午 午當
 家鴨まか梅う散とて床も庭 柳 柳絮
 笑おれや梅の影と守りし 鳳 鳳兮
 梅咲ハ梅えさしとの日和あま 大 大蕪
 折音の中まおのや舟の梅 右 右史
 ちお梅ま枝まおし梅みお 右 右稻

へんのみ

梅

ひらみ

柳

さへこれ戸城のさへ梅の花
星ハしく梅うち白木のもより
梅白く月の明るの鈴々たる
二日かゝるおよむ梅のあし
眠ふとを寝る梅のう馬のさ
以て修や澤とんしとを柳
やとまも志さう柳の志さる
山をさそ水さえく柳静なり
多てこののりともちさ柳か
時をて柳の志さるをさ
及はさいさる柳から柳なり

貫明 葉障 六 車月 柳堂 梅價 芥水 瑞馬 蜂友 文庵

鶯

とて横二煙のかゝり柳なり
往き夏の庭に結らん柳か
け比のあちこちさるさ柳う南
力あつく雪のはるさ柳う南
多長し柳の志さる柳う南
夕晴のちぬをさ柳う南
さうさうさうさう鶯啼くさう
鶯の心とけさうさうさう
鶯や小村のあしとさう
うさささのさうさうさう
さうさうさうさうさう

車西 梅夫 現舟 瀾古 梅壺 龜年 松江 常野 詠物 申浦

へいのみ

梅壺

ひらひら

其のやうなうらむけはたかひらう
 まうふふ衣うう山か可ん
 うくじまよえとくわる朝露
 雲よよとて度とちうくうま子
 其のよしもわをね林う那
 うくれをのうまのあて又森か
 まやうやうれまよふ救み中
 其のやう虫か人まよとん紙を
 雉子元山や片日わいて雉子お雪
 雲雀啼ひりう春のの小橋もか鳥かり

^{ミト}規外
^南素々
^信美九
^ウ洒童
^イ凌雲
^{周防}其雪
^イ起羊
^長一挙
^長大峨
^長枕溪
^夕岸浴

其の朝も日の照る雲雀か
 東雪や人の声はか啼ひり
 雀の子よきやれ朝の朝や
 真の丁屋ついでまよ道多う小田か
 春の馬下扱やてもアと申さく
 列々よよとてかうくう
 厚うも厚啼き只かうう
 う朝去ぬと必はさると小田の
 海う小田のおうも月と梅
 露うたてううぬ杖を去ぬア
 白真ハハものたうひう急もりの

^ア釣翁
^ア吟唯
^イ透史
^イ玉屑
^イ心非
^下推平
^ナ松兄
^ナ試李
^ナ季成
^ヤ雪齡
^正玉光

八のひ

びんのみ

蛤 燕 蛙

去る夏や揚子も水おひり
蛤よりおんちきき一子抱
愛来るをや柳のついで
魚のりきききききききき
鳴しき外や宮井のゆい蛙
世より多ききききききき
山の端に花をえおきき蛙
おもたけきききききき蛙
産みおひきききききき蛙
青海に産むききききき蛙
祿子の蜘蛛を舟月に見明て

梅路 油丸 国村 幸雄 姓蘭 彙彦 焚実 廣右 篤光 史映

蝶

前巻

余筆 田の水に家六
丁移のまきまき余筆か南
其の雪 湖く吹たきききき雪
梅とむきききききき雪
春の水 あきききききき水
霞 かきききききききき水
貝の石の石ききききき水
春水の石きききききき水
滝ありて寺と見えききき水
かきききききききき水

青羽 及甫 外 祥木 阿 王之 井里 固来 秋里 晋和

八の女

下 大

ひらひら

下三

功きうけろ人の定とまろやも清水
三千度

まろやで嵐のふえしわろし舟
帯梅

き用その底さゆりまろし舟
其程

手はろろ大子も来ろりまろし舟
其程

美日 おそくはも揺るもつてのまろし舟
黄平

ま月 まろし舟の中人まろし舟
吳来

秀風 まろし舟か揺るまろし舟
瓜坊

馬のよる舟も揺るまろし舟
吳明

いつとまろし舟も揺るまろし舟
一予

山甲や一人とまろし舟も揺るまろし舟
裸尻

渡世とまろし舟も揺るまろし舟
白二

春山 真の山まろし舟も揺るまろし舟
梅仙

秀舟の山まろし舟も揺るまろし舟
白二人

若ま 口のまろし舟も揺るまろし舟
和開

口のまろし舟も揺るまろし舟
素檠

口のまろし舟も揺るまろし舟
方宙

口のまろし舟も揺るまろし舟
天外

口のまろし舟も揺るまろし舟
碩母

いひひ

下三

ひのけ

南

おのりともやうく接つてく

南

菜の花

友の道に葉折れし山家の卯

成美

豆山のうらみ菜のむらさき

輕舟

菜の花よもよもく白ひつ那

翠雪

飯好の悟る青のりしうささ

翠

婦たれし禁じ禁くそちさ

茶

初花やうけはのぼくふりち

百敏

えうねままととくよを何様

萬外

松風の昔夢をさう初ささ

表掉

初花こかくさる葉のぼく

二の争

旅人は夢かされてを兄う那

泉池

蛤も花は口にあ、江を

舟有

やぬ葉も花の北野より

平秋

霞あがりまもみお和のり

呂川

ちりちりさくおてはお白くけ

岸生

毛方 杖取うつに家の木おる

三巻

早のりやまましやううさ家の友

扇風

辛吐うや結ばれしちうささ

出度

らぶ花や一夢うけしやう

土英

日おる庭のぼのぼのうら

の盆

小きくは早ぬものよむか

蕙布

花のちる空や毎日様

文京

ひのけ

下

しんのみ

櫻

色とりや 葉よつとてぬかこの栞
 ちりまきと栞のり 二葉のほ山に
 むとせおてとむれちうぬまのさ
 牛く 柳の山路くあひよお
 芽みけていささかきこもも
 唇もかきくや何取のささこよ
 さくや 花びらの入ら栞の由
 入ねのふらふらや ちりまきと人
 葉帯のさしやねうちち栞栞
 夕陽のつやや栞のささか中
 栞のさのさのこ日ちりりささ

味を
 金
 物
 十丈
 乙度
 くの女
 其さ
 其れ
 千影
 無
 送

ちよのりも大るのよちありぬ山栞
 眼のささきほと八尾ささ栞る
 ちもつやは黄栞もちちちちち
 ちちちちちちちちちちちちちち
 常息のちちちち栞ちちちちち
 丘栞とちちちちち栞ちちち
 栞のさ ね風ちちちち栞ちちち
 ちちちちちちちちちちちちちち
 船の栞よ ちちちちちちちちち
 ちのさ 栞ちちちちちちちちち
 栞のさ ちちちちちちちちちちち

黄山
 古曉
 宇原栞
 ちる谷
 五芳
 若六
 音果
 葉や
 古栞
 笠仙
 栞六

へんのみ

栞六

ひのき

七

三千雄 ^{ミチ}
 霞岫 ^{カスミ}
 李明 ^リ
 布席 ^フ
 南丘 ^{ミナミ}
 桑谷 ^{クワ}
 杜名 ^ト
 空石 ^{カラ}
 星備 ^{ホシ}

石海 ^{イシ}
 晚影 ^{バン}
 上光 ^{カミ}
 屋馬 ^ヤ
 百池 ^{ヒャク}

新

八

二

乙卯年
の
夏

下
七

夏

谷

夕暮のちりてあつしそり
 能くけつはうらさや
 初霍こころは
 水家
 牡丹
 芥子
 油土
 千崖

雪燈

杖

孤

三美

如

虚白

千崖

乙卯年

下

ひらひら

ひらひら

梅の葉も散らう芳子のまろりく
 朝のあけの空ふらふそそそそ
 杜若の葉も散らう芳子のまろりく
 郊の光も散らう芳子のまろりく
 芳子のまろりく
 半葉の葉も散らう芳子のまろりく
 小の葉も散らう芳子のまろりく
 多の葉も散らう芳子のまろりく
 少の葉も散らう芳子のまろりく
 亦下葉も散らう芳子のまろりく

三史
 蟹守
 茶静
 成史
 女馬
 市松
 市雪
 女馬
 女馬
 女馬

青柳の葉も散らう芳子のまろりく
 青葉の葉も散らう芳子のまろりく
 青の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく
 緑の葉も散らう芳子のまろりく

車丸
 妻車
 希孫
 預筆
 圭子
 百非
 孤蟾
 終
 外
 久蔵
 海舟

八八

八八

しん
の
み

神
十

初観 大名の寺とすりや 知うの
河原 山彦はら部の方の丸まらんあや
地よ 角をじて人をとらふらん 地よ
ぬのちきりのものもあはじ 地よ
坂 坂根や 霧木の月み 新あか
淡の青の坂根をえんる自づ
中庭中二木の井の野所 淡
地まきく馬あつらふる由あか
町を 町を 晴や 舟のあやも 板
月も 月も 山も 山も 出るを 出るを
味も 味も 出るを 出るを

賈天
逸人
井古
女梅
日和
素求
杜蓼
若翁
月彦
巴圭

町を 町を 晴や 月ひく板いし
更し山やいし 町を
町を 町を 町を 町を
おほいし 町を 町を
糸も 糸も 糸も 糸も
町を 町を 町を 町を
人 人 人 人
町を 町を 町を 町を
板根 板根 板根 板根
町を 町を 町を 町を

毒堆
去誘
山下
田笑
泥中
女角
一糸
雲葉
月丸
谷雨
方居

八
の
み

後
十

しん
の
み

山
山

おいしうけのうとを思つたふたつと

山

かこころを遠きまでとて山お神

山

しきうとまのきふあまのちやの種

仁十

一風や物船のまきいひしんを

六喜

物のかを人まかして月又

万氣

川より物舟溜りの朝霞

意江

物船ほとを船工の船の船

合涼

戸を物とてまともたれまの言や

馬頂

果かへあまのうもふあま

女

物とまをく言物船よりたうり

草城

のうとあや席の平おきまらハ

草城

堂

丑

森の子ふさうしうりまをさうりふを

色

うしうきをるおまをさうりまをさうり

五来

織 けさうのむしうあを門の

日

物 筆ちまをたけとぬうまの白

免

とらふ けさうのむしうあを門の

免

可 けさうのむしうあを門の

免

竹 けさうのむしうあを門の

免

案 けさうのむしうあを門の

免

布 けさうのむしうあを門の

免

物 けさうのむしうあを門の

免

物 けさうのむしうあを門の

免

物 けさうのむしうあを門の

免

山

山

しんのみ

神

古くして極てくえんを法
 押さう大まきこころに三粒の
 合飲 ぬりまらふりやもあらうぬり
 吾思ひるはつて感ちりゆきて丹のうら
 ま事主のらへん意のけしりるま事主
 寺に暗くち様のの事やら年月川
 身しるもや声あはれものほつてお
 入梅 ぬしあも切糸よあるや入梅お若
 暑 ぬしあも切糸よあるや入梅お若
 吾月やまのあらうと河津のふ
 あらまの口の目いもつてねぬ蝶々
 宗古 新馬 李天 西子 阿鳳

涼

涼 ぬしあも切糸よあるや入梅お若
 暑 ぬしあも切糸よあるや入梅お若
 吾月やまのあらうと河津のふ
 あらまの口の目いもつてねぬ蝶々
 宗古 新馬 李天 西子 阿鳳
 羅凡 月行 宗徳 梓明

しんのみ

神

しりあ

あ

さく月や皆新婦さくさくま

新妻をさく妻をさくさくさくま川流ま

さくまさくま田あさき月の色ま

風葉ま花の影中さくま風か柳ま

夕立まゆるのさくま風あまさくま柳ま

帷子まさくまさくまさくまさくま

さくまのさくま帷子まさくまさくま

さくまのさくまのさくまさくまさくま

おのまさくまはま山さくま柳まのま

花のまさくまさくまさくまさくま

ほろまやまさくまさくまさくま

柳さくまやまさくまさくまさくま

干渉まさくまさくまさくまさくま

さくまさくまさくまさくまさくま

水月まさくまさくまさくまさくま

さくまさくまさくまさくまさくま

世のまさくまさくまさくまさくま

さくまさくまさくまさくまさくま

夢さくまさくまさくまさくまさくま

あ

あ

尚古 古 友 得 馬 良 無 湖 江 山

挂眉 亞溪 月信 音破 土印 野光 幻化

ひの
の
み

三
三

秋

初秋 夕のむらさき

暮れ

さくら花のあけ

木

あけ花とあけ

花

あけ花とあけ

花

あけ花とあけ

花

あけ花とあけ

花

あけ花とあけ

花

ひの

三

三

ししのみ

毛

廿三

天の川了びつりあめりあそふくさく

七つたろかちかちかちかちかちか

七つたの日月あそふくさくあそふく

盆月 ちひさしあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

あそふくさくあそふくさくあそふく

いいのめ

毛

廿三

漢物

沼田

季康

角一

瓜坊

月

響

娘

木

聲

探

翁

書

竹

魚

山

雅

流

松

舟中におのこが舟に坐し
 月の子をかたけにうつらうつらと月をうつら
 舟の月をうつらうつらと月をうつら
 大うこの人こそ女まらう。おのこ月
 山加の風もあましく寝つゝ
 ち月や花の早うかき
 都のていつと月か人まら
 船もかきつゝ月か月
 山加の月もあましく月
 雲遣りてあましく月
 ○

静水 完来 舟場 笠格 不將 甘谷 茂外 杳月 桐栖 采彦 在里

虫 おのこ しののめ 舟中 舟に坐し 月の子 月をうつら 舟の月 大うこの人 山加の風 ち月 都のていつと 船もかきつゝ 山加の月 雲遣りて
 まらう 月をうつら 舟の月 大うこの人 山加の風 ち月 都のていつと 船もかきつゝ 山加の月 雲遣りて
 舟中におのこが舟に坐し
 月の子をかたけにうつらうつらと月をうつら
 舟の月をうつらうつらと月をうつら
 大うこの人こそ女まらう。おのこ月
 山加の風もあましく寝つゝ
 ち月や花の早うかき
 都のていつと月か人まら
 船もかきつゝ月か月
 山加の月もあましく月
 雲遣りてあましく月
 ○

舟全 如石 綾彦 家彦 吾彦 夢彦 書彦 重彦 古録 茂彦 在里

しののめ

和歌

茲柝^{チハク} 何^{ナニ}も^モの^ノ春^{ハル}の^ノ月^{ツキ}つと^ツと^ト昔^{ムカシ}の^ノ柝^{チハク}
 木^キ 櫃^ツ 里^{サト}の^ノ海^{ウミ}いし^シ 乃^ナ上^ノ木^キ 櫃^ツ 垣^ヰ
 も^モむ^ムく^クけ^ケく^クか^カな^ナれた^{レタ}秋^{アキ}の^ノ日^ヒ
 あ^アの^ノ笑^{スマイ}む^ムは^ハ退^{タイ}を^セて^テあ^アね^ネ木^キ 櫃^ツ
 心^{ココロ}ま^マの^ノこ^コの^ノい^イの^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナ
 い^イと^ト月^{ツキ}の^ノさ^サむ^ムは^ハら^ラの^ノあ^アの^ノい^イち^チも^モ
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 と^トは^ハし^シと^トは^ハら^ラの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム

舟^{フネ}の^ノ上^ノの^ノ春^{ハル}の^ノ月^{ツキ}つと^ツと^ト昔^{ムカシ}の^ノ柝^{チハク}
 里^{サト}の^ノ海^{ウミ}いし^シ 乃^ナ上^ノ木^キ 櫃^ツ 垣^ヰ
 も^モむ^ムく^クけ^ケく^クか^カな^ナれた^{レタ}秋^{アキ}の^ノ日^ヒ
 あ^アの^ノ笑^{スマイ}む^ムは^ハ退^{タイ}を^セて^テあ^アね^ネ木^キ 櫃^ツ
 心^{ココロ}ま^マの^ノこ^コの^ノい^イの^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナ
 い^イと^ト月^{ツキ}の^ノさ^サむ^ムは^ハら^ラの^ノあ^アの^ノい^イち^チも^モ
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 と^トは^ハし^シと^トは^ハら^ラの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム
 昔^{ムカシ}の^ノ木^キ 櫃^ツ 乃^ナの^ノい^イち^チも^モと^ト女^メら^ラの^ノむ^ム

七ノの廿

七ノの廿

公^{キミ} 柝^{チハク} 三^ミ
 和^ワ 月^{ツキ} 帝^ミ
 女^メ 帝^ミ
 由^ユ 之^シ
 昔^{ムカシ} 我^ガ
 長^{チカ} 成^ネ
 大^{オホ} 桌^{ツメ}

しんがひ

か

萩

宿の心くちりやうやみおき
よの宿う焼たしめるやみおき
うんきとさわくやみおき
あつとんてあつとんてあつとんて
うんきやうやみおき
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて

反車
一炊衣
一炊衣
一炊衣
一炊衣
一炊衣
一炊衣
一炊衣
一炊衣
一炊衣

秋風

いづつやうにうらやまの山
綿巻やあしとさよふらふ人
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて
あつとんてあつとんてあつとんて

招隆
九華
定雅
桂中
眉山
木天
素律
耕九
者美
葵亭
桂羅

いづつやうに

か

七十一

和

氏

のし砂子他信さくや山さき

飛川

草持

とけ枝やぬ枝ゆへら露の枝

素竹

栗

あちらうやう角のちうる石汁

長

菊

葉も人もらうのせうちう山あひ

徐英

赤葉のちうもちうとあさうの

李名

今よぬくくしてけや...菊のまひ

可難

一まてことらうるの葉のまひ

可真

葛

隙く...の葉のぬるけり即

太乙

信せやうとよりて海...の葉

太乙

お葉...の葉もあまよふる葉

音臨

葉あきて朝ぬをみちうけく

を付ふちう...あまの葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のふ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

秋のぬ...の葉

梅

雜

西風のまぬるる海のうらさ

井眉

八十一

和

しじの
の
み

和
四

行りけりし中の吟めたるよ
目よりや秋の露のまの月
松林 五語 砂童

し

夕

時めきやとやむらや秋の初
早のよあはれもせむりし
思ひよかたきもよ
初しれあきのや
灯のよかたきもよ
小寺むすくゆき
美表めはらやゆき
月居 羅城 士明 美人 驚き 雪 瓢久

小寺
美表

しのみ

冬

空 夜霧のちかやきささの灯のゆり
 草の けの柱ゆてのぼらささ
 けを 葉つくと白うみおのりうけい
 ろを 持ゆさそや けやうと似しを指
 大籠 うのうとさうていつくさる
 隈が けしちやうさあめつと白く新
 おき 月のらるの湖のりささをとかりし
 おの ぶ千をものほよめさうさう
 浪の おきこねと毎かさうはや
 徳谷 ぶゆのこさちやうけりあを
 石を ねとあやとて啼うよけあを

千雀 車呼 菊塙 五節 芳原 芳原 芳原 芳原
 籠先 芳原 芳原 芳原 芳原

夕せふとさうさう月のおきさうけ
 啼やいさあうさきさうさうあめ
 と今ものをあやうさうさうあ
 けう 答うおとろはあんとさわくのう
 江よ せいのおくや 時つねといさ
 おき ぶきの善いあやうさう三井の経
 ぬき ぬくめさうさうさうあやうさう
 みそ さのあておのりさうさう
 うり びんりのあておのりさうさう
 枯れ ぬきさうさうさうさうさうさう

日 月 百九 其成 万柄
 扇 文壇 紙杖 豊

八八の奴

終 置

こののめ

冬

山菜花 さ〜ん望のぬら〜りて入る

お〜ぬらぬらや山菜花自ひらる

枯柳 さ〜ぬのつ〜く〜きり枯柳

落葉 木とゆきとらん移さよるも木格

ふとれは供け〜とよき〜るも木格

落葉ふし草乾あ〜りの赤う〜て

赤せんふ入〜と〜と木のまほ

ふよとねら供け〜りのよ木への

よ移て産屋〜あよ〜る道師

産木のまふ人の歌のせ〜り〜す

枯尾花 穂積〜く〜一〜も〜と〜や枯尾花

花 枯草の底の〜と〜と〜て〜

ふん草の底の〜と〜と〜と〜

風 風の浪み〜く〜も〜少〜う〜

あ〜し〜や〜柳のよ〜く〜

木枯や味〜け〜す〜き〜

このし〜や〜地〜き〜切〜日〜の〜

日〜く〜ま〜吹〜か〜し〜の〜

冬草 よき〜底の〜と〜雨〜と〜多〜り〜

あ〜あ〜ま〜と〜さ〜ん〜の〜

雲 け〜底の〜都〜へ〜

雲の月〜と〜れ〜と〜る〜

六九歌

下ろす

六葉

十枝

己月

二風

梅回

奇

共

六

三

一

八八のめ

冬

氷

雪

氷の音の響くや氷の山路の
雪の音の響くや雪の山路の
氷の音の響くや氷の山路の
雪の音の響くや雪の山路の

氷 雪 氷 雪 氷 雪 氷 雪

寒月

炭

楮

寒月の光を照らす
炭の音を聴く
楮の葉をみる
寒月の光を照らす
炭の音を聴く
楮の葉をみる

寒月 炭 楮 寒月 炭 楮 寒月 炭 楮

年忘 一 志せつまねく 月のおておん
 神可 神さきいふおの志もむうし風
 吹走 有明さるうてきつむ師をい
 戸口さくられい師さの戸口
 本名の志を去場よと序のり
 増もさるうてのりつこをさ川
 みうねて松葉うねるはは
 志をさや都の候本さるう雀
 雅 出雅 子尹 脱負 葵堂
 有篁 蘭香 芒草

入勺名録

京	月居	蒼虬	電燈	木海	瓦全
定粒	土印	籠鳥	六曹	寸丈	梅價
荷六	茂良	守三	杜壘	風也	素頑
蕉里	焉頂	布雪	蕙叙	素臺	岱栗
百丸	百池	万栖	乙彦	荇水	都友
素打	西燈	仙草	車吟	欽之	仁聖女
九羊	雀棲	可鳥	百英	丈篤	艾楚
素谷	艾松		山城	雲程	良島
梅臺	麗岫	茶身	体乙	繁雪	寧何

八の好

三

乙卯年

大和馮月 橋 義 隆 無 角 一 聖

樹山日 河內 未 紀 古 光

和泉 右 稿 孫 業 陶 庵 嘉 祿

大坂 丰 六 馬 中 尺 艾 一 炊 庵 乃 和

奇 測 三 傳 人 及 爲 公 政 貞 興 井 眉

星 瀨 竺 舟 後 杖 字 祿 長 祿 亨 壽

杜 水 新 奉 文 頊 友 玉 瑞 弓 孝 崔

崎 友 魯 隱 愚 珊 未 彦 琴 雷 釣 翁

月 江 嘉 山 子 結 呂 佃 乃 十 白 崎

自 樂 希 孫 里 風 竹 吾 望 外 空 色 尼

長 梅 外 半 艾 月 笠 下 五 湖 浪 車

素 虫 米 丸 蕭 遠 魚 船 葵 山 乙 女

之 之 女 丈 替 三 史 葵 之 松 舟 告 鐘

河 舟 三 美 巢 飛 如 石 靜 水 乃 壽 友

一 走 槌 之 丈 境 季 成 九 秋 貞 別

撰 津 一 葉 桐 栖 譽 集 素 長 松 月

之 余 宿 跡 汝 翁 十 光 礪 人 芝 榮

吳 集 招 隆 古 鼓 龍 坊 吳 光 迹 壽

一 衣 吳 以 蓮 花 一 寺 榮 全 退 步

兼 標 太 乙 千 露 青 河 采 園 亦 石 人

八八八八
日

參	月	英	逸	梅	尾	未	伊	笑
河	底	山	人	間	張	白	勢	外
秋	賈	麻	呂	不	士	孤	佳	凌
拳	矢	聖	川	情	朗	壻	寺	雲
卓	蝶	兔	雞	木	羅	南	雀	石
池	雙	迹	亭	天	城	丘	吟	似
木	志	立	大	常	岳	井	聖	寒
芳	竟	汀	泉	梅	恪	里	渡	人
	賦	綺	杜	方	岱		焉	如
	文	英	半	明	青		妻	寂
	龜	山	平	松	竹		宗	對
	主	崎	亦	兄	有		古	路

乙、の、子

四十六

遠	有	伊	江	心	依	康	南	芝	武
江	斐	豆	戶	龍	吟	乃	井	山	藏
淵	嵐	言	亭	寺	吟	乃	井	山	藏
古	外	見	塚	堂	吟	乃	井	山	藏
菊	漫	相	菓	古	吟	乃	井	山	藏
度	々	模	地	第	吟	乃	井	山	藏
	壺	葛	完	寒	吟	乃	井	山	藏
	紗	三	未	松	吟	乃	井	山	藏
甲	琴	維	成	茲	吟	乃	井	山	藏
斐	中	唯	吳	雨	吟	乃	井	山	藏
二		方	三	梅	吟	乃	井	山	藏
切		輝	子	支	吟	乃	井	山	藏
里			度	相	吟	乃	井	山	藏

八、の、子

四十六

ひのび

四十七

安房	校長	素共	下結	上野	土虬
茅丸	素柳			恒丸	素月
車末	小尼	五雅	服赤	推平	李峰
桂丸	廣凌		常陸	松江	規外
李尺	知壽	乙人	雪根	有英	化迪
義魚	中々		近江	破道	五来
千新	宇洋	古猿	蕙布	米友	采仲
燃雪	亞漢	去々女	芳長	英丸	土明
波作	和月	正唯	宗康	芳々	班在
西多	仙李	英唯	虚白	崇律	

飛川	方甫	丁島	孤靜	文為	青樟
乙雀	重崇	友甫	探子	廣君	季磨
美濃	茂雀	巴圭		飛彈	備史
信濃	素繁	素伯	何頼	茶丸	松守
新峰	彌光	一茶	茶人		
陸奥	仙二	巢君	旌潤	日人	土由
石北	馬年	夢南	素口	平角	如髮
冥々	茶城		出羽	長繁	峯梅
可貞	龜年	孫々	里川	板庫	芳流
東車		若狹	琴夕	蔓唯	芳雨

八のび

四十八

坐仙	柳棠	交困	丹波	越後	越中	梅庭	周泰	加賀	雪君
尚古	馬良	冬未	野揚	石海	真心	白二	周未	眉山	
月波	集棠		長陵	尤琴	嵐士		年端	無古	越前
鳳兮		丹後	栲朗	旭浪	焉翁	能登	黃年	耳谷	端昂
	但馬	乃翁	古孝	西凌	文憲	岸芷	楚實	子崖	友甫
	岸輪	山魏	車丸			吮氣	羽莫	舍涼	

安藝	備後	需和	泥中	尹明	播磨	隱岐	一卷	伯耆	因幡
篤老	蘇六		五芽	害律	玉扇	之水	起羊	米子	大甚
寺地	岱西	備前	吳山	葵坐	執燗			茶壺	兎籠
梅仙	昔風	出旌	備中	四突	牧負	美作	石見		瓢久
稻馬			古音	千丈	文口	樵蹊	秋里	出雲	
後彦			葦島	龜仙	市胡			解風	

八八八

五十一

ひのひ

五十一

植	筑	艾	讚	錦	小	洪	長	子	圭
羅	前	梅	歧	里	豆	路	門	尹	多
蔓	一	青	茂	呼	交	十	羅	西	双
豆	屏	池	控	破	楊	岐	夙	坡	扎
	括	土	宗	子		李	義	植	寸
	尤	佐	德	所		長	友	眉	古
筑	斗	素		芋	阿	羊	月		蕊
後	丈	括		史	波	山	丸		史
有	瓢		伊		古	市			路
豆	風		豫		爰	丸			宅
文	乙		擣		毋				古
角	子		半		著				口

〇〇〇〇

四十九

保	豐	月	虫	大	肥	日	薩
嵐	前	行	肅	婦	後	向	廣
艾	嵐		五	文	破	出	香
程			英	塘	壺	彥	梁
車	肥	出	告	方	蛇	叶	有
月	前	噴	噴	務	丸	重	豆
錄	豐	祥	艾	梅	一	吟	
舟	後	禾	吹	路	素	吟	
艾	葵	象	天	汝	三	月	壹
岐	亭	也	外	門	考	旌	岐
	羽	風	季		方		三
	身	風	吹		丸		手
			吹				確

八十八

八十

乙卯の日記

新説 士朗七部集 全二冊

子まらり 栲日記 菴大集 抄 岩
ふく日記 三日月集 昔合集

新説 活紙七部集 全二冊

新桂合 雪より 黏波 山鹿
系造り 長月集 月又記 夏介 芥子の柄
附録 今世宗通之十六人 卷白集

文政七年甲申八月 獲見

塩屋 季助

浪速書房 塩屋 忠兵衛

河内屋 茂兵衛

